

第1回江川流域づくり支援会議（第二期）
議事録（要旨）

開催日：平成27年11月16日(月)

時 間：午前9時30分から午前11時30分

場 所：上尾市文化センター 306

1 開会

2 江川流域づくり支援会議（第二期）の設置について

- ・ 事務局から、
資料1 江川流域づくり支援会議（第二期）規約（案）
資料2 江川流域づくり支援会議（第二期）傍聴要領（案）

について説明。

<質疑応答>

- ・ 規約（案）第2条「江川流域における「取組み」の実施内容や進捗状況をもとに、施策の一層の推進を図るための提案を行うこと」の提案は、誰に対して行うのか。また、どのように反映されるのか。
→ 江川流域づくり推進行政会議に提案し、会議の中で検討する。
- ・ 傍聴要領（案）5 会議の非公開の決定、「希少野生動植物種について協議する場合は非公開」としているが、全面的に公開すべきではないか。
→ 希少野生動植物種について協議する場合で、盗掘を招く恐れがあるときや個人の権利に関する話については、非公開とする。
- ・ 希少野生動植物種の保護については、人それぞれ意見がある。公開することで、不利益が生じる恐れがあるのであれば、非公開でよいのではないか。

3 委員紹介

4 座長選出

5 座長挨拶

6 議 事

議題（1）江川改修の経緯について

- ・ 事務局から、
「江川改修の経緯について」
「平成26年度検討業務の結果について」

について説明（資料の読上げ）。

<質疑応答>

- ・ 市民の誰もが納得する案を考えてほしい。特に市道71号線は常に冠水している。道路を嵩上げしてほしい。道路冠水をなくすためには現況地盤活用案のようなただ広げるだけでは難しい。ある程度掘削を行う必要があるのではないか。
 - 河川整備の方法や課題等を会議の中で議論していきたい。
掘削に伴って、湧水が生じることもあるので、単純に流下能力が増えるわけではないが、今後検討していきたい。
- ・ 現況地盤活用案で下流部を整備することによる上流への影響はわかった。最近の異常気象に伴う雨の被害を上流から下流でいかに公平にシェアしていくかも重要である。河川整備で想定している降雨は何mm/hか。9月県議会で知事の言っていた検討とは具体的に何か。
 - 県では時間雨量50mm/h程度の降雨を安全に流下させることを目標にして、河川整備を行っている。河川整備は下流から順に行うのが原則であるが、途中で貯める調節池をつくることもある。下流の河川整備がなかなかまとまらない中、下流の負担軽減につながる方策について、検討を行っている。
- ・ 河川整備には時間がかかる以上、増水時の市道管理について事前に迂回路を決定しておくべきではないか。また、県警による強制力を伴う通行止めの実施を要望する。
 - 緊急対策として、看板の設置やポールによる通行止めを実施している。また、各学校で迂回路の指導を行っている。県警による強制力を伴う通行止めの実施については市で確認する。
- ・ 今の氾濫状況で水位はどの程度になっているのか。堤防をつくることで水位が高くなるのか。
 - 現在の氾濫時水位は把握できていない。資料4により説明した堤防の高さは堤防内に水を治めるために必要な堤防の高さである。堤防がないと現況地盤活用案以上の幅で浸水する。
- ・ 第一期の提言は、様々な意見があった中で、当時の委員がなんとか集約したものであり、環境に偏った内容ではない。

(2) 江川改修計画に対する意見交換

<委員発表>

- ・ 近々の出来あがりの姿に目がいきやすいが、20年、30年後に周囲にどうなっているかといった長期的視野に立った街づくりとの調和について考えるべきである。
- ・ 上尾道路は希少種保護のために、移植している。江川の自然は埋め立て等で変遷している。どんな環境をつくっていくのかが重要である。

- ・ 江川は子供のころに遊んだ思い出がある。人命が優先なので、早く河川改修をしてほしい。
- ・ 今まで議論ばかりで何をしていたのか。だから、河川改修が進まない。営農支援、公園整備を進めていないから、荒地ばかりになっている。河川改修も営農支援も、より一層進めるべきだ。
- ・ 今年の事故を繰り返してはいけない。早く安全な橋を整備するべきである。
- ・ 第一期の委員だったので、現状の河川整備が進まない状況について、責任を感じている。しかし、第一期で提言をまとめたときも様々な意見があつて大変だった。今ここで別のいい方法が見つかるとは思えない。論点を絞り、会議を運営してほしい。
- ・ 鳥が希少種の種を運んだことで、自然が変わったのではないか。最下流の工業団地の冠水対策を早くしてほしい。何を実行するかをの会議にしてほしい。
- ・ 水源地の上流の北本市、鴻巣市は江川の浸水被害に対する実感がない。第一期で議論を重ねた提言を基本に、進めてほしい。
- ・ 流域4市で協議し、準用河川で改修を始めてから約25年近く経っている。推進協議会で29回議論しても決定的な案は出てこなかった。今後事故を起こさないために、自然より人命、市民生活を優先して河川改修をしてほしい。
- ・ 20年前から河川改修に向けた議論をしていることがわかりました。環境大学で勉強したので、方向付けに協力できればと考えている。降雨強度50mmとの話であるが、地球温暖化、局地的な集中豪雨などに対応するため、75mmなどの検討が必要ではないか。
- ・ 7月の出水状況で、消防はどう動いたのか。県道を冠水させてはいけない。道路を嵩上げすべき。出水時の水位上昇データがあれば状況を把握できる。どうやって事故を防止するかが大事である。治水と環境のバランスを取ることも重要だが水質改善や浸透施設整備は進んでいるのか。
- ・ 第一期の提言を受けて河川整備は着々と進むものと思っていた。営農支援なども進まず、河川だけに集約されているが、提言の5項目はちゃんと進めるべきである。水を汚している北本市、鴻巣市も含め、みんなで責任を負うべきである。

<座長総括>

- ・ 座長から各委員の意見について以下の3案のとおり総括された。
 - ①環境も大事だが、買収済用地を活用して治水を優先した整備
 - ②現況地盤活用案をベースに整備
 - ③河川整備などのハード対策に限らず、ソフト対策と提言の5項目を含め、総合的に判断した計画
 これらについて、検討し次回で議論する。

(3) その他

- ・ 事務局から、
「江川流域づくり支援会議（第二期）」の今後のスケジュールについて説明。

7 閉会